

総合文化学習センター(仮称)
(芸術文化交流施設)
PFI導入可能性調査

【概要版】

事業予定地：豊橋東口駅南土地区画整理事業地区内
敷地面積：約7,500㎡

【位置図】



平成20年3月

豊橋市

1 調査目的

総合文化学習センター（仮称）は、第4次豊橋市基本構想・基本計画におけるリーディングプロジェクトの一つである「まちなか文化の創造」の主な事業として、新たなまちなか文化の創造を促し、幅広い世代の交流を促進するための文化・交流拠点として、整備が計画されています。

本業務は、この総合文化学習センター（仮称）のうち第一次整備の対象となる芸術文化交流施設について、PFI手法による整備の妥当性、実現性を調査することを目的としています。

2 施設整備計画の概要

（1）基本理念

芸術文化の創造拠点として、また芸術文化活動を通じた人々の出会いと交流の拠点として、芸術文化活動の高みを形成するとともに裾野を広げ、地域のさらなる活性化を目指します。

（2）基本方針

新たな舞台芸術作品の創造を通じて、地域文化を支える人材を育成し、芸術文化の質の向上や芸術文化活動の裾野を広げます。

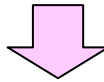
優れた舞台芸術作品との出会いや芸術文化活動へ参加する機会を提供し、豊かで潤いのある生活の実現に寄与します。

芸術文化活動を通じて人々が互いに刺激し、新たな出会いの場として、大きな役割を果たすことができる施設を目指します。

芸術文化活動を支える様々な情報を収集し、必要とする市民に的確に提供することができる施設を目指します。

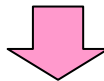
（3）事業方針

つくる 『育成・創造』	つなぐ 『協働・連携・継承』	つどう 『賑わい・交流』
<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化活動の裾野の拡大 ・次世代の地域文化を担う人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働の場の創出 ・様々な分野との連携 ・伝統文化を継承するための拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな賑わいの創出 ・地域ぐるみでの発展 ・文化情報の収集、蓄積、発信



（4）事業体系

育成事業	創造事業	交流事業
<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化を担う人材の発掘、育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・育成事業の成果から生み出す新たな地域文化の創造 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの促進、広域的な文化交流

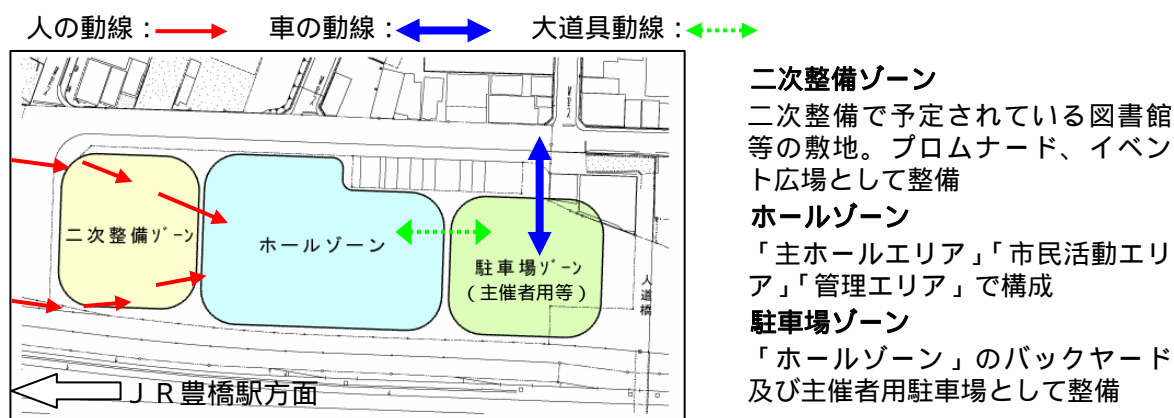


（5）施設整備方針

事業方針・事業体系を実現する2つの柱	
<p>優れた舞台芸術を鑑賞・上演できる空間の提供とともに、地域から新たな芸術文化を創造・発信する場としての 主ホールエリアと芸術文化活動を通じた人々の出会いと交流、次世代の地域文化を担う人材の育成、市民や文化団体の自由で自主的な活動を支援する場としての 市民活動エリアの2つの柱を持ち、それらが周辺の街と動線的につながり、街に対して開かれ、市街地活性化に大きく貢献する施設構成を図ります。</p> <p style="text-align: center;">施設の延べ床面積 約 7,600 m²</p>	
主ホールエリア	市民活動エリア
<ul style="list-style-type: none"> ・客席数 800 席。演ずる者の生の声が客席の一番奥まで届き、表情や衣装がはっきり見える演劇を主体としたホール ・多様な公演や演出を可能とする広い主舞台と袖舞台 ・シンプルでスタンダードでありながら、照明、吊物等が充実した舞台設備 ・数も広さも十分な楽屋 	<ul style="list-style-type: none"> ・アートスペース 100～200 人収容。舞台や客席を自由に設定できる空間の整備 ・創造活動室 稽古場（大・小）、音楽練習室、バンド練習室等で構成。会議、展示等多目的な利用も想定 ・研修室、交流スクエア、市民活動室、託児室等

(6) 配置計画

ホールゾーンと二次整備ゾーンとが一体的に活用できること、ホールゾーン整備に必要な広さが確保できること、人と車の動線の交差が回避できること、JR豊橋駅から二次整備ゾーンへの動線が確保できることから、下図の配置が望ましいものと考えます。



3 PFI手法の導入に関する検討

(1) PFIとは

PFI (Private Finance Initiative : プライベート・ファイナンス・イニシアティブ) とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい社会資本整備の手法です。一般的にPFIの効果は、事業コスト及びリスクの低減、公共サービスの質の向上、財政支出の平準化などがあげられます。

公共ホールへのPFI手法の導入は、過去に杉並公会堂やいわき芸術文化交流館など6事業で採用されており、一定の効果をあげています。

(2) 事業スキームについて

PFI手法導入のポイントは、官民が得意分野を分担し、事業の効率性のみならず、適切な官民協同によりサービス水準の向上を目指すことです。本事業の“文化事業”は、芸術作品の鑑賞にとどまらず、市民参加による『地域独自の芸術文化の育成、創造、交流』を目指しています。その実施においては、非商業的な機能が求められ、公共性を確保しながら、柔軟性を有した事業展開が必要となります。このため、本事業では、文化事業を(財)豊橋文化振興財団が担うことと想定し、運営業務については市(財団へ委託)が担うパターンと、民間事業者が担うパターンを想定しました。

また、事業方式は、税制面で有利となるBTO*方式とし、事業期間については、運営期間を15年・20年の2ケースでVFM*の試算を行いました。

(3) VFM分析の結果

PFI手法導入の効果を検証する一つの指標としてVFM分析(公共が直接事業を行う場合と同等あるいはより高い市民サービスの提供を前提に、公共が負担するライフサイクルコスト*が従来方式(PSC)*より低いかどうかの経済性の比較分析)を行いました。

その結果、いずれのケースも効果が認められ、運営期間は15年、運営業務の民間事業者への委託を行わないケースが最も効果が高い結果となりました。

PFI事業範囲	設計・建設・維持管理		設計・建設・維持管理・運営	
運営期間	15年	20年	15年	20年
VFM(%)	5.6%	5.3%	5.0%	4.6%

(4) PFI導入可能性の評価と課題の整理

VFM分析の結果、財政負担の軽減と平準化が期待されること、民間意向調査において事業参加の意向が確認されたこと、文化事業を(財)豊橋文化振興財団が担うことで公共性の確保と柔軟な事業展開が可能であることから、PFI手法の導入が可能であるといえます。

また、施設運営については、VFMの結果とともに、文化事業の実施が施設運営と密接に関わっていることから、市(財団へ委託)がその役割を担うことが望ましいものと考えます。

これら本事業における性質を踏まえ、民間に委託する施設整備や維持管理の内容、民間の創意工夫を最大限引き出す方法、事業者選定方法及び契約内容などの具体的な検討を行いながら、今後、最適な事業スキームの構築を図っていきます。

[PFI用語]

BTO (Build Transfer Operate)

民間事業者が施設等を建設し、施設完成直後、公共施設等の管理者等に所有権を移転し、民間事業者が維持・管理及び運営を行う事業方式

VFM (Value For Money)

VFMはPFI事業における最も重要な概念の一つで、支払い(Money)に対して最も価値の高いサービス(Value)を供給するという考え方のこと。従来方式と比べてPFIの方が総事業費をどれだけ削減できるかを示す割合

ライフサイクルコスト

事業期間全体を通じた設計、建設、維持管理・運営、修繕更新等の全費用。従来方式(PSC)との比較によるVFMの算定については、ライフサイクルコストの現在価値(NPV)*換算額を用いる。

従来方式 (PSC : Public Sector Comparator)

公共部門が自ら施設等を整備・運営する場合に採用すると考えられる事業形態、及びその事業期間全体を通じた公的財政負担(見込)額。VFMの算出などPFI導入を検討する際の比較対象として用いられる。

現在価値 (NPV : Net Present Value)

複数年にわたる事業の経済的価値を計るために、将来価値を一定の割引率で置きかえ、評価時点の貨幣価値に換算したもの

**総合文化学習センター(仮称)
(芸術文化交流施設)
PFI導入可能性調査【概要版】**

平成20年3月

発行 豊橋市

編集 文化市民部文化課

住所 〒440-8501
豊橋市今橋町1番地

電話 (0532)51-2873